

## ヒロセ通商株式会社

### リスク説明書

当社は、金融商品取引法が定める金融商品取引業者として同法の適用を受けます。また、当社は、金融商品の販売等に関する法律が定める金融商品販売業者として同法の適用を受けます。本説明書は、金融商品取引法及び金融商品の販売等に関する法律の規定に基づき、お客様に店頭外国為替証拠金取引及び店頭外国為替オプション取引（以下、「店頭デリバティブ取引」といいます。）に関連するリスクについての情報を提供するものですので、本説明書を熟読して内容をご理解いただいたうえで口座開設のお申込みを行ってください。

店頭デリバティブ取引は、元本が保証されている取引ではなく、外国為替市場や金利の動向によっては、利益が得られることもあります。また、店頭外国為替証拠金取引（以下、「証拠金取引」といいます。）は、想定元本と比較して少額の資金を預託して行う取引であるため、お客様は、大きな利益を得ることもありますが、逆に預託された資金の元本を上回る大きな損失を被ることもあります。店頭外国為替オプション取引（以下、「オプション取引」といいます。）は、短期間で大きな利益を得ることもありますが、お客様がオプションを購入するために支払ったオプション料（以下、「プレミアム」といいます。）の全額を失うこともあります。

#### 1. 価格変動リスク

店頭デリバティブ取引は、為替レートを指標として行う取引であり、為替レートの変動によりお客様が損失を被るリスクがあります。従って、当社に預託された資金及び店頭デリバティブ取引による利益が保証されるものではありません。さらに証拠金取引においては預託された資金の元本割れもしくは元本を上回る損失発生可能性があります。

#### 2. レバレッジ効果によるリスク

証拠金取引は、レバレッジ（てこの原理）を利用した取引であり、対価で行う為替取引に必要な資金と比較して、少額の資金での取引が可能のため、少しいの為替レートの変動であっても、お客様の未決済ポジションの評価損益は大きく変動します。従って、預託された資金の元本割れもしくは元本を上回る損失発生可能性があります。当社では、お客様の便宜のため、「最大レバレッジ」と「実効レバレッジ」とを使い分けております。「最大レバレッジ」とは、必要証拠金が対価で行う為替取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すもので、「実効レバレッジ」とは、口座全体のレバレッジのことで、有効証拠金が対価で行う為替取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すものです。なお、LION FXの法人のお客様以外につきましては、「最大レバレッジ」「実効レバレッジ」ともに最大25倍となっております。

#### 3. 金利変動リスク

証拠金取引は、決済期限を設けていないため、当日の取引終了時（ニューヨーク市場クローズ時）における未決済ポジションに対してスワップポイントが発生し有効証拠金へ加減算されます。お客様は、金利水準の異なる2国間の通貨を売買することにより、金利が低いほうの通貨の買いポジションを持った場合、または金利が高いほうの通貨の売りポジションを持った場合、スワップポイントを支払う必要があります。スワップポイントは、各通貨の短期金利の年率を日割り計算したものをベースとして、当社が諸経費を加算して算出したものとなります。金利水準は、各国の経済事情や政治情勢等様々な要因を反映して変動しますので、スワップポイントが受取りから支払いに転じる場合があります。

#### 4. ロスカットのリスク

証拠金取引では、預託された資金の元本を上回る損失発生を防ぐため、当社の定める一定時間または当社の定める時点において、為替レートに基づきお客様の未決済ポジションを時価評価します。時価評価を行った時点で有効証拠金が必要証拠金を下回った場合、当社は、お客様の全ての未決済ポジションを成行注文で反対売買することができますが、その際、為替レートの急激な変動等により、預託された資金の元本を上回る損失発生の可能性があります。

また、有効証拠金の全額を必要証拠金として使われた場合、注文が約定した時点で、スプレッド（売レートと買レートの差）により有効証拠金が必要証拠金を下回り、直後にロスカットとなります。

#### 5. 流動性リスク

外国為替市場は、きわめて取引高が多いものの、各国の祝祭日、戦争・動乱や天災地変、経済動向を大きく左右する事態、また、各国の規制や処置等による取引の制限、取引の停止、さらに、金融機関の破綻等によって、流動性の低下または流動性が損なわれる場合もあります。このような流動性の低下等の理由により、証拠金取引においては、売りレートと買いレートの価格差が拡大したり、注文が約定しない等、ロスカットを含む意図した取引ができない可能性があります。また、約定した場合であっても、為替レートの急激な変動によっては預託された資金の元本を上回る損失発生の可能性があります。オプション取引においては、取引が開始される前において重要経済指標の発表、経済情勢の激変、為替相場の急変等の事情により、取引を変更又は取消とすることがあります。また、取引が開始されている場合であっても、市場レートから著しく乖離が認められる異常レートの配信、通信・システム障害の発生等、やむを得ない突発的事象により取引を無効又は取消とすることがあります。

#### 6. 損失を限定させるための注文のリスク

証拠金取引において、損失を限定させることを意図した特定の注文方法は、通常の市場環境では、お客様の損失を限定する効果があるものと考えられますが、為替レートが一方向にかつ急激に変動した場合等には有効に機能せず、お客様が指定されたレートよりも不利なほうにスリッページして約定する可能性があり、預託された資金の元本を上回る損失発生の可能性があります。

#### 7. 電子取引システムの利用のリスク

電子取引システムでは、注文の受付に人手を介さないため、証拠金取引において、お客様が売買を行う場合、誤発注等により意図しない注文が約定する可能性や意図した注文が約定しない可能性があります。オプション取引においては、誤発注等により意図しないオプションを購入する可能性があります。また、電子取引システムには、当社またはお客様ご自身の通信・システム機器の故障、通信回線等の障害・混雑、情報配信の障害、あるいは電子取引システムそのものの障害等様々な原因で一時的または一定期間にわたって利用できない状況が起こる可能性、また何らかの原因で電子取引システムが利用できない場合は一切の注文等の取引行為が行えない可能性があります。電子取引システム上で表示される為替レート等の情報は、必ずしも市場レートを正確に表示しているとは限りません。為替レートが急激に変動した場合、為替レート等の情報は遅れ気味となり、電子取引システム上の為替レート等の情報と市場レートとが乖離する可能性があります。電子取引システムを利用する際に用いられるログインID、パスワード等の情報が、窃盗、盗聴等により漏れた場合、その情報を第三者が悪用することによりお客様に損失が発生する可能性があります。

#### 8. 信用リスク

店頭デリバティブ取引は、当社とお客様との相対取引であり、取引の相手方である当社の信用状況により損失を被る可能性があります。

#### 9. カバー先の信用リスク

当社は、お客様から注文を受付けた場合、直ちに当該注文に呼応するカバー取引を行いますので、お客様には、カバー先の信用状況により損失を被る可能性があります。

## 10. 両建のリスク

証拠金取引では、売りポジション（買いポジション）を保有している状態で、同じ通貨ペアの買いポジション（売りポジション）を保有すること（以下、「両建」といいます。）ができます。両建によるデメリットとして、各ポジションに発生するスワップポイントの差によるコスト、売りレートと買いレートの差（スプレッド）によるコスト等があります。当社では、お客様が負担されるコストをリスクであると考え、両建を推奨いたしておりません。ただし、「HiroseTrader」以外のシステムにつきましては、お客様ご自身の判断において両建を選択することもできる仕様としております。なお、「Hirose-FX2 ミニ」においては、コストとして手数料も発生します。

## 11. 週末のリスク

外国為替市場が一般に取引を行っていない週末に様々な状況が生じ、金曜日の終値から大きく乖離したレートで月曜日の取引が開始する場合があります。このような場合、証拠金取引においては、ストップロス注文やロスカットが予定損失額を上回る可能性、また預託された資金の元本を上回る損失発生可能性があります。

## 12. 営業時間外の取引リスク

当社の営業時間は、日本の祝日を除く、日本時間の月曜日から金曜日までの午前9時から午後6時までとなっております。当社の営業時間外における取引においては、障害発生時も含め、十分なサポートが提供されない可能性があります。

### 【証拠金取引】

#### 「最大レバレッジ」と「実効レバレッジ」について

##### (1) 最大レバレッジ

想定元本から比較して、証拠金取引を行うために最低限必要である必要証拠金で算出した、最大の倍率をいいます。お客様の証拠金取引における最大レバレッジの算出方法は、以下の通りです。

(例) USDJPY のレートが 92.64 円で、1 万通貨の取引をする場合

想定元本 = 為替レート × 取引数量

必要証拠金 = 想定元本 × 4%

最大レバレッジ = 想定元本 ÷ 必要証拠金

想定元本 = 92.64 円 × 10,000 ドル = 926,400 円

必要証拠金 = 926,400 円 × 4% = 37,056 円

最大レバレッジ = 926,400 円 ÷ 37,056 円 = 25 倍

- ・ 必要証拠金のみでの預託であった場合、発注可能額の範囲での発注は可能なため、注文は受けられ、新規注文約定直後に、スプレッド（売りレートと買いレートの差）等によりロスカットとなりますのでご注意ください。
- ・ 法改正に伴い、最大レバレッジの上限は、25 倍となります。

##### (2) 実効レバレッジ

お客様の口座の有効証拠金からみて、全ての未決済ポジションに対してかかる口座の実効の倍率をいいます。お客様の口座における実効レバレッジの算出方法は、以下の通りです。

全未決済ポジションの想定元本 = 為替レート × 全未決済ポジション数量

有効証拠金 = 取引証拠金 + 全未決済ポジションの評価損益

実効レバレッジ = 全未決済ポジションの想定元本 ÷ 有効証拠金

- ・有効証拠金が少額、取引数量が過大であるほど実効レバレッジは高くなり、有効証拠金が多額、取引数量が過少であるほど実効レバレッジは低くなります。取引数量、預託する取引証拠金等により、お客様ご自身で実効レバレッジの調整を行うことができます。
- ・法改正に伴い、実効レバレッジは、最大 25 倍となります。

※LION FX の法人のお客様につきましては、必要証拠金は定額固定制となっておりますので、取引説明書（LIONFX / LION BO の法人のお客様用）の必要証拠金一覧表をご確認ください。

最大レバレッジの計算方法は、最大レバレッジ＝想定元本÷必要証拠金ですが、必要証拠金が定額固定制のため、為替レート（想定元本）の変動により、最大レバレッジも変動します。

## 【オプション取引】

オプション取引は、現在の為替レートに近い将来（判定時刻）において 値上がりするかまたは値下がりするかを予想する取引で、判定時刻（自動権利行使）において自動的に判定されますので、証拠金取引のような反対売買による決済を行う必要はありません。お客様の最大損失額は、オプションを購入するための取得対価の額（プレミアムの額）となり、損失が限定されているため、ロスカットもありません。

利益の額のことをペイアウトといい、プレミアムの額とペイアウト倍率で算出されます。

ペイアウト（利益）の計算式

プレミアム + (プレミアム×ペイアウト倍率) = ペイアウト

以下、具体例です。

日本時間午前 10 時時点で、午後 4 時のドル円のレートを予想する場合

現在のレート：90.000 円

判定時刻：午後 4 時

ペイアウトの倍率：80%

判定時刻のレートが 90.000 円より【値上がり】すると予想

1,000 円のプレミアムを支払い、オプションを購入

プレミアム：1,000 円

約定レート：90.000 円

### 【値上がり】

判定時刻のレートが、90.001 円

判定レート：90.001 円

ペイアウト：1,000 円 + (1,000 円×0.8) = 1,800 円

1,000 円を支払い、1,800 円受取る → 800 円の利益

### 【値下がり】

判定時刻のレートが、89.999 円

判定レート：89.999 円

ペイアウト：0 円

損失：1,000 円（プレミアムの全額）

【同一レート】

判定時刻のレートが、90.000 円

判定レート：90.000 円

ペイアウト：1,000 円 = 1,000 円 + (1,000 円 × 0)

1,000 円支払い → 1,000 円受取る → 差し引き 0 円

また、判定時刻（自動権利行使）以前において権利放棄をすることもできます。

当社は、お客様が当社の提示する払戻条件にご同意いただいた場合に限って、権利放棄を受付けます。

払戻条件は、プレミアムに対するお客様への返金率を示していますが、為替市場の状況によっては、払戻条件が 0% となり、払戻金額が 0 円となることもあります。

払戻金額の計算式

払戻金額 = プレミアム × 払戻条件 (%)

判定時刻（自動権利行使）以前において、予想した方に為替レートが変動している場合であっても、権利放棄による払戻金額は、ペイアウトの額を上回らない額となります。

以上は、店頭デリバティブ取引に伴う典型的なリスクを簡潔に説明するものであり、店頭デリバティブ取引に生じる一切のリスクを漏れなく示すものではありません。店頭デリバティブ取引を開始される場合、取引の仕組み及びリスクについて十分にご理解頂くようお願い申し上げます。

平成 24 年 4 月 23 日現在